

第69回毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞
第87回キネマ旬報文化映画ベストテン第3位

きょうも、夫婦。

待望のDVD化
sayama-movie.com

殺人犯とされて55年——
泣き 笑い 怒り 日々を“凛”として生き抜くふたりの物語

SAYAMA

みえない手錠をはずすまで

監督 金聖雄 ドキュメンタリー映画 2013年 105分

図書館・学校用価格：30,000円＋税（個人貸出・館内無償上映可）

ライブラリー価格：60,000円＋税（個人貸出・館内無償上映・団体貸出・館外無償上映可）

販売 岩波映像株式会社



不運だったけど不幸ではない！まっすぐに生きるふたりの泣き笑いの日々

ど んなに大きな苦難を背負っていても、生きる

ことは美しい。―石川一雄さんと早智子さんの出会いはそう思わせてくれるものだった。1963年5月1日埼玉県狭山市でおこった女子高生殺害事件、いわゆる「狭山事件」。犯人にでっちあげられたのは被差別部落に住む石川一雄さんだった。獄中32年、仮出獄から19年。事件から半世紀「殺人犯」というレッテルを背負い続けながら、石川さんは今もなお「私は無実です」と訴え続ける。

映画はそんな石川さんと連れ合いの早智子さんに3年間寄り添った。「不運だったけど不幸ではない！」というふたり。「冤罪」という強いられた人生を受け止めまっすぐ歩む、その何気ない日常のなかからあぶりだされたものは普遍的なメッセージだった。

「幸せとは」「愛とは」「友情とは」そして「正義とは」……映画は問いかける。

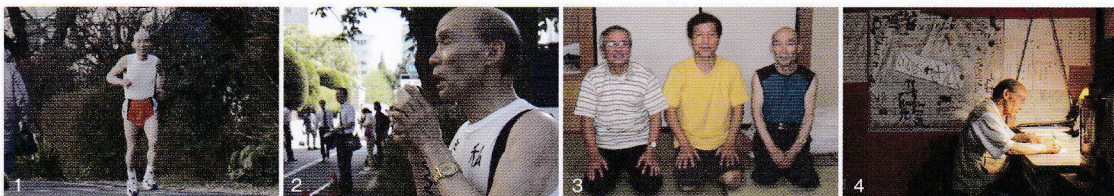
監督

金聖雄

石川さん本人について、実は私も何も知らない。そして、ぜひ知りたい。香山リカ（精神科医）

この映画には、「愛すべき人」がいる。「魅力的な人」がいる。それがいいんです。周防正行（映画監督）

“そうきたか” 石川夫妻の人間像を描くことで、むしろ冤罪のむごさが伝わってくる。やくみつる（漫画家）



1 日々身体を鍛える 2 高裁前で無実を訴え続ける 3 冤罪の仲間 “獄友” たち。記念撮影となるとつい正座をしてしまう 4 教育を受けられなかった一雄さんは獄中で文字を獲得した

監督：金聖雄／撮影：池田俊巳、浜崎努、横山友昭、山内泰／現場録音：山田健太郎、高木西一／録音：吉田茂一／音楽&ピアノ：谷川賢作／ギター&ハミング：小室等／テルミン：トリ音／パーカッション：河野“菌ちゃん”俊二／録音エンジニア：ichiro／ナレーション：伊藤惣一／編集協力：野村太／技術協力：菊池純一／制作デスク：若宮正子、中村達史、伊藤純子／スチール：村田次郎／デザイン：安田桂子／配給協力：水由章／上映デスク：坂井えつ子／プロデューサー：陣内直行／製作：映画「SAYAMA」製作委員会



SAYAMA
みえない手錠をはずすまで

取扱店

北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2 〒336-0911
電話048-810-5277 Fax048-876-2955